

特集にあたって

東邦大学医療センター大森病院放射線科 堀 正明

脊椎脊髄疾患における低侵襲治療の選択肢として、インターベンショナルラジオロジー (IVR) は重要な手段です。しかし、IVR には、カテーテルを用いた血管内治療から、椎体形成術、椎体腫瘍に対するラジオ波や凍結療法など、多様な手技が存在し、さらに施設によってその普及度合いには大きな差があるのが現状です。正直、ほとんど IVR を行っていない施設では、残念ながら治療の選択肢にはならないものと思います。

この特集では、脊椎脊髄疾患における最新の IVR 治療法とその臨床的応用について、知識のアップデートを提供することを目指しています。各原稿は、この分野の第一線で活躍する専門家の先生方によって寄稿されており、それぞれのテーマに関する深い洞察と豊富な経験が反映されています。また、画像を用いた解説も多く、理解しやすくなっています。もちろん、この特集を読んだことで、直ちに IVR ができるようになるわけではありません。治療の選択肢として、現状このような IVR の手技や治療、そのための解剖の理解などの重要性などについて、少しでも興味やご理解をいただけますと幸いです。

正直なところ、私自身の施設で脊椎脊髄疾患における IVR の実施頻度が高いわけではありません。この特集の記事を確認して、自戒をこめて IVR はもっと普及すべき手技であると再認識しております。治療法の多様性と進化に対応するためにも、最新の IVR 技術に関する知識の習得は不可欠です。本特集を通じて、読者の皆様の IVR に対する知識と興味がいっそう深まり、より質の高い治療提供の一助となることを心から願っております。

最後に、本特集の実現にご協力いただいたすべての執筆者、また関係した編集者の方々に心からの感謝を申し上げます。